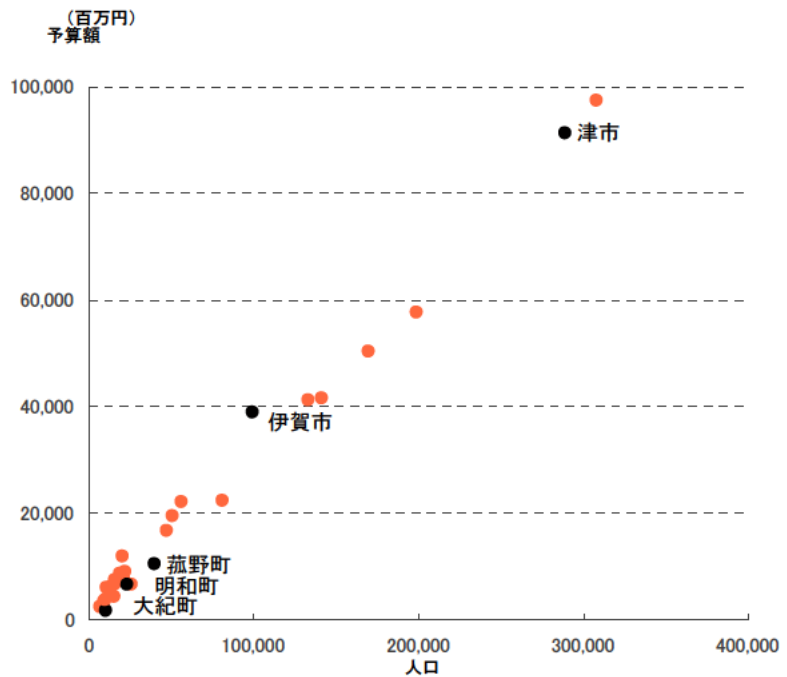


単位：百万円

市町名	平成21年度	順位
四日市市	97,535	1
津市	91,329	2
鈴鹿市	57,679	3
松阪市	50,319	4
桑名市	41,554	5
伊勢市	41,184	6
伊賀市	38,916	7
名張市	22,327	8
志摩市	22,137	9
亀山市	19,446	10
いなべ市	16,746	11
熊野市	11,857	12
菰野町	10,414	13
鳥羽市	8,958	14
紀北町	8,614	15
尾鷲市	7,860	16
南伊勢町	7,499	17
多気町	6,662	18
明和町	6,603	19
東員町	6,577	20
川越町	6,281	21
大台町	5,951	22
紀宝町	5,464	23
玉城町	4,294	24
御浜町	3,715	25
朝日町	3,417	26
度会町	3,061	27
木曾岬町	2,373	28
大紀町	1,710	29
三重県	610,480	
全国	***	

● 市町別予算規模（普通会計・当初予算）



平成21年度の県内の市町別普通会計・当初予算規模をみると、四日市市が975億3500万円で最も多く、次いで津市の913億2900万円、鈴鹿市の576億7900万円となっています。

全般的に人口規模に比例した予算規模になっていることがわかります。

● グラフデータ

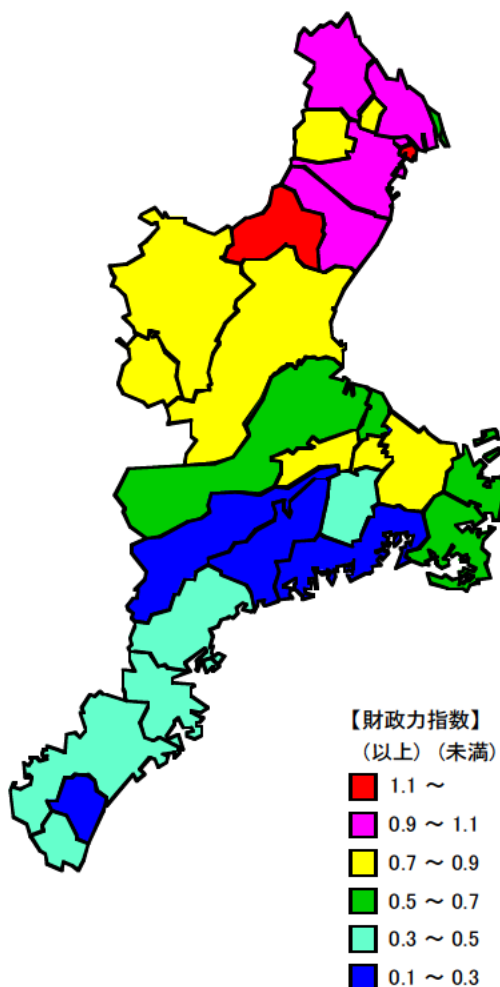
サンプル市町	津市	伊賀市	菰野町	明和町	大紀町
予算規模(百万円)	91,329	38,916	10,414	6,603	1,710
人口(人)	288,888	99,208	39,821	22,857	10,198

【資料出所】

県政策部市町行財政室「普通会計当初予算の概要」
 県政策部統計室「推計人口」

● 市町別財政力指数

市町名	平成21年度	順位
川越町	1.564	1
亀山市	1.388	2
四日市市	1.096	3
鈴鹿市	1.041	4
いなべ市	0.980	5
桑名市	0.969	6
朝日町	0.945	7
東員町	0.817	8
菰野町	0.816	9
名張市	0.800	10
津市	0.794	11
多気町	0.763	12
伊賀市	0.725	13
玉城町	0.718	14
伊勢市	0.705	15
松阪市	0.677	16
木曾岬町	0.589	17
明和町	0.583	18
鳥羽市	0.525	19
志摩市	0.507	20
尾鷲市	0.442	21
紀宝町	0.399	22
度会町	0.345	23
熊野市	0.311	24
紀北町	0.311	24
大台町	0.293	26
御浜町	0.275	27
南伊勢町	0.250	28
大紀町	0.218	29
県内平均	0.684	
全国平均	***	



平成21年度の県内の市町別財政力指数をみると、川越町、亀山市、四日市市、鈴鹿市の4市町が1を超えています。

一方、東紀州地域の市町は全て0.5を下回っており、全般的に県南部の市町は低い値となっています。

【資料出所】

県市町行財政室「市町村財政の概要」、「普通会計決算概要(市町分)」

【算出方法】

財政力指数＝基準財政収入額/基準財政需要額

※(過去3年の平均値)

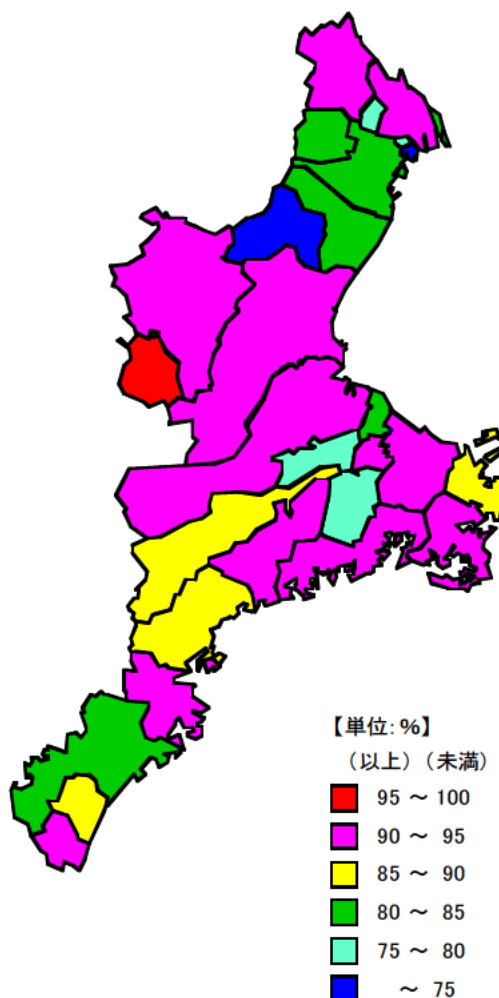
【備考】

財政力指数は、地方公共団体の財政力の強さを表す指数です。値が1に近く、あるいは1を超えるほど財政に余裕があるものとされます。

単位：％

● 市町別経常収支比率

市町名	平成20年度	順位
名張市	95.8	1
桑名市	94.8	2
南伊勢町	94.8	2
大紀町	94.5	4
伊賀市	94.2	5
尾鷲市	93.8	6
伊勢市	93.4	7
津市	93.0	8
いなべ市	92.8	9
松阪市	91.8	10
志摩市	91.6	11
紀宝町	90.8	12
玉城町	90.0	13
紀北町	89.7	14
御浜町	89.7	14
大台町	89.4	16
鳥羽市	86.7	17
熊野市	84.8	18
四日市市	84.5	19
鈴鹿市	84.1	20
明和町	83.5	21
菰野町	82.6	22
木曾岬町	80.2	23
東員町	79.1	24
多気町	78.8	25
度会町	78.1	26
朝日町	75.5	27
亀山市	69.8	28
川越町	68.4	29
県内平均	86.8	
全国平均	***	



平成20年度の県内の市町別経常収支比率をみると、およそ半数近くの市町で90%以上となっており、厳しい財政運営が続いています。

【資料出所】

三重県市町行財政室「普通会計決算概要(市町分)」

【算出方法】

経常収支比率＝経常経費充当一般財源/経常一般財源等歳入合計＋減収補てん債特例分＋臨時財政対策債×100

【備考】

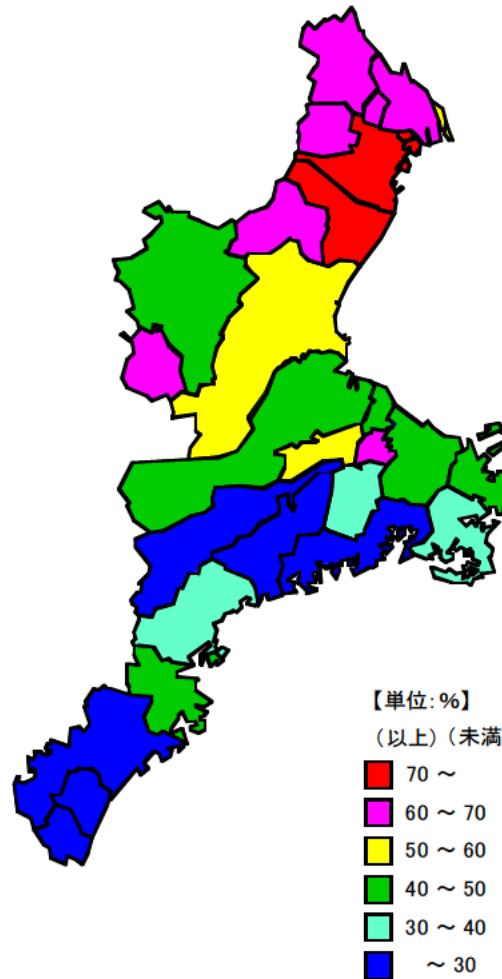
経常経費充当一般財源とは、人件費や公債費のように用途が固定化した財源のことです。

経常収支比率は、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断する指標の一つです。この比率が高いほど、財政構造が硬直化しているといえます。

単位：％

● 市町別自主財源割合

市町名	平成20年度	順位
川越町	87.6	1
朝日町	77.4	2
鈴鹿市	75.1	3
四日市市	70.3	4
桑名市	69.5	5
亀山市	67.1	6
東員町	66.7	7
菰野町	65.8	8
いなべ市	63.0	9
玉城町	62.0	10
名張市	60.1	11
津市	55.6	12
多気町	55.3	13
木曾岬町	50.6	14
明和町	49.3	15
伊勢市	48.4	16
松阪市	48.0	17
伊賀市	46.0	18
鳥羽市	41.7	19
尾鷲市	41.3	20
志摩市	36.7	21
度会町	36.3	22
紀北町	30.2	23
紀宝町	29.5	24
熊野市	28.7	25
御浜町	27.7	26
大紀町	23.3	27
南伊勢町	22.6	28
大台町	21.1	29
県内平均	50.2	
全国平均	***	



平成20年度の県内の市町別自主財源割合をみると、県北部の市町は全般に高い値となっており、逆に南部の市町は全般に低い値となっています。

【資料出所】

三重県市町行財政室「県内市町の財政運営」

【算出方法】

自主財源割合＝自主財源額／歳入総額

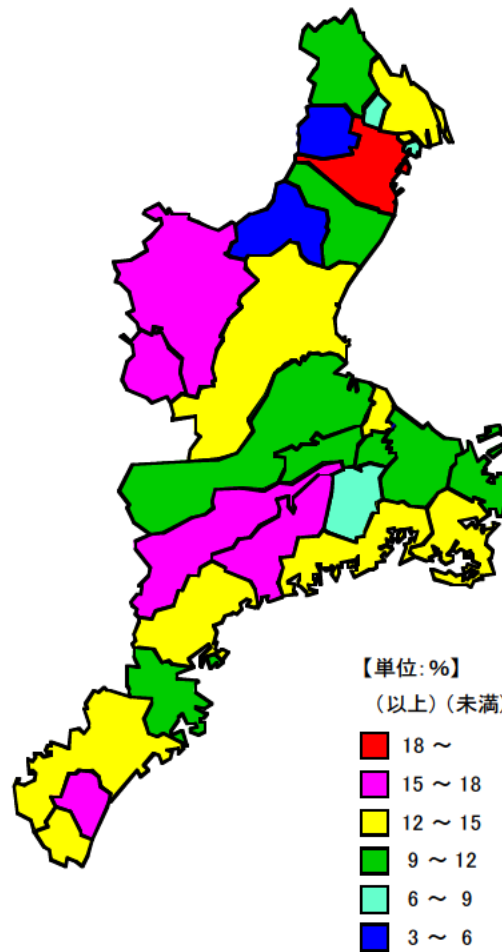
【備考】

自主財源割合とは地方公共団体が自主的に収入しうる財源、すなわち地方税、分担金及び負担金、使用料、手数料などの財源を指します。

単位：％

● 市町別実質公債費比率

市町名	平成20年度	順位
四日市市	18.6	1
御浜町	16.6	2
伊賀市	16.5	3
大紀町	16.1	4
名張市	15.7	5
大台町	15.1	6
紀北町	14.7	7
朝日町	13.7	8
紀宝町	13.6	9
津市	13.4	10
桑名市	13.1	11
熊野市	12.3	12
志摩市	12.3	12
木曾岬町	12.1	14
明和町	12.1	14
南伊勢町	12.0	16
いなべ市	11.9	17
玉城町	11.2	18
伊勢市	11.1	19
尾鷲市	11.1	19
鳥羽市	10.8	21
多気町	10.8	21
松阪市	10.3	23
鈴鹿市	9.2	24
度会町	7.7	25
東員町	7.2	26
川越町	7.1	27
菰野町	4.5	28
亀山市	4.2	29
県内平均	***	
全国平均	***	



平成20年度の県内の市町別の実質公債費比率をみると、四日市市が18%以上となっており、新たに地方債を発行する際には総務大臣等の許可が必要となります。

【資料出所】

三重県政策部市町行財政室「県内の市町財政の現状」

【算出方法】

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(A+B) - (C+D)}{E-D} \quad (\text{前3年度の平均値})$$

A: 当該年度地方債の元利償還金

B: 地方債の元利償還金に準ずるもの（公営企業債等）

C: 元利償還金、準元利償還金に充てられる特定財源

D: 普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金

E: 標準財政規模

【備考】

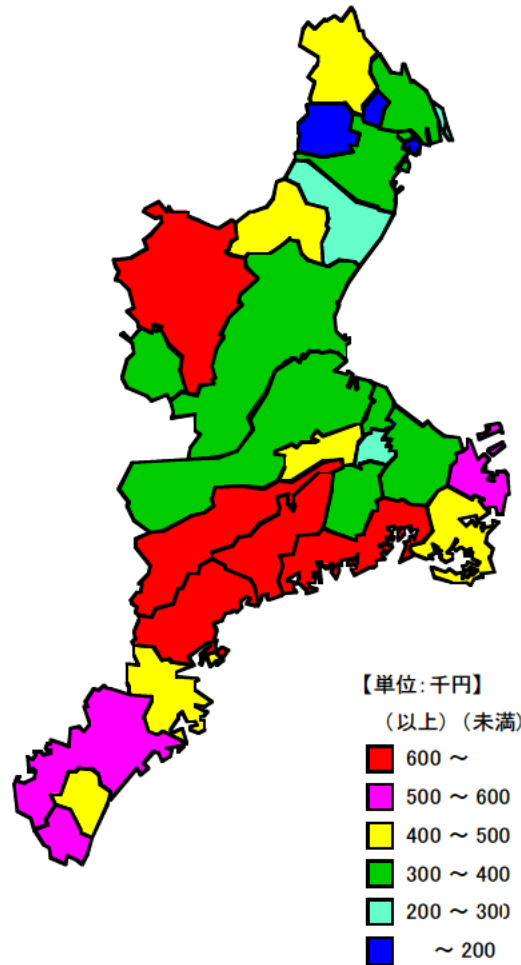
実質公債費比率は、地方自治体の税収と地方交付税を合わせた標準的な収入のうち、その用途が公営企業のみも含めた借金返済として決まっている割合を示す指標です。

この数値により、地方自治体の歳入のうち、どの割合を借金返済分として充てる必要があるのかがわかります。

単位：千円

● 市町別地方債現在高（人口1人あたり）

市町名	平成20年度	順位
大紀町	957	1
大台町	742	2
南伊勢町	668	3
紀北町	629	4
伊賀市	604	5
熊野市	556	6
紀宝町	543	7
鳥羽市	511	8
尾鷲市	485	9
志摩市	469	10
多気町	462	11
御浜町	458	12
亀山市	445	13
いなべ市	411	14
明和町	366	15
伊勢市	362	16
津市	360	17
四日市市	359	18
桑名市	356	19
松阪市	350	20
度会町	339	21
名張市	311	22
朝日町	304	23
玉城町	259	24
鈴鹿市	246	25
木曽岬町	210	26
東員町	199	27
菰野町	172	28
川越町	58	29
県内平均	***	
全国平均	***	



平成20年度の市町別1人あたり地方債現在高をみると、大紀町が95万7千円と最も多く、次いで大台町の74万2千円、南伊勢町の66万8千円となっています。

一方、最も少ないのは川越町で5万8千円となっています。

全般に県南部が多く、北部が少ない傾向となっています。

【資料出所】

三重県政策部市町行財政室「県内の市町財政の現状」

【算出方法】

1人あたりの地方債現在高＝地方債現在高/3月末日現在の住民基本台帳人口

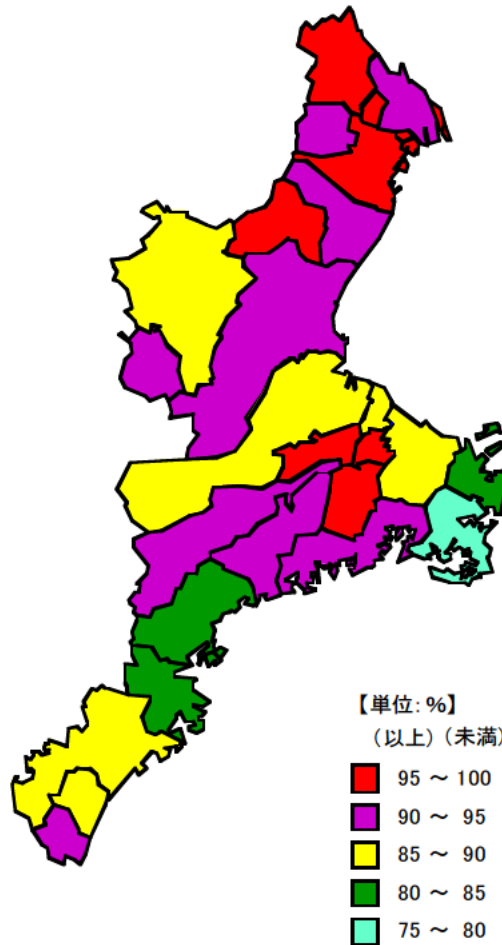
【備考】

地方債現在高とは、地方公共団体が前年度までに発行した額のうち、当該年度までに償還した分を差し引き、それに当該年度の新規発行額を加えた年度末現在額をいいます。

単位：%

● 市町税の徴収率

市町名	平成20年度	順位
朝日町	97.8	1
いなべ市	97.6	2
多気町	96.8	3
川越町	96.3	4
四日市市	96.2	5
玉城町	96.0	6
木曽岬町	95.9	7
東員町	95.6	8
度会町	95.4	9
亀山市	95.0	10
大紀町	94.6	11
名張市	94.5	12
大台町	94.0	13
鈴鹿市	93.1	14
桑名市	92.3	15
紀宝町	91.7	16
菰野町	91.2	17
南伊勢町	90.8	18
津市	90.5	19
伊賀市	90.0	20
伊勢市	89.8	21
松阪市	89.4	22
熊野市	89.1	23
御浜町	88.7	24
明和町	86.2	25
尾鷲市	84.7	26
鳥羽市	81.5	27
紀北町	80.0	28
志摩市	77.0	29
県内平均	91.4	
全国平均	***	



平成20年度の市町税の徴収率をみると、最も高いのが朝日町の97.8%、次いでいなべ市の97.6%となっています。

一方、最も低い志摩市では77.0%となっています。

【資料出所】

三重県市町行財政室「市町村税の概要」

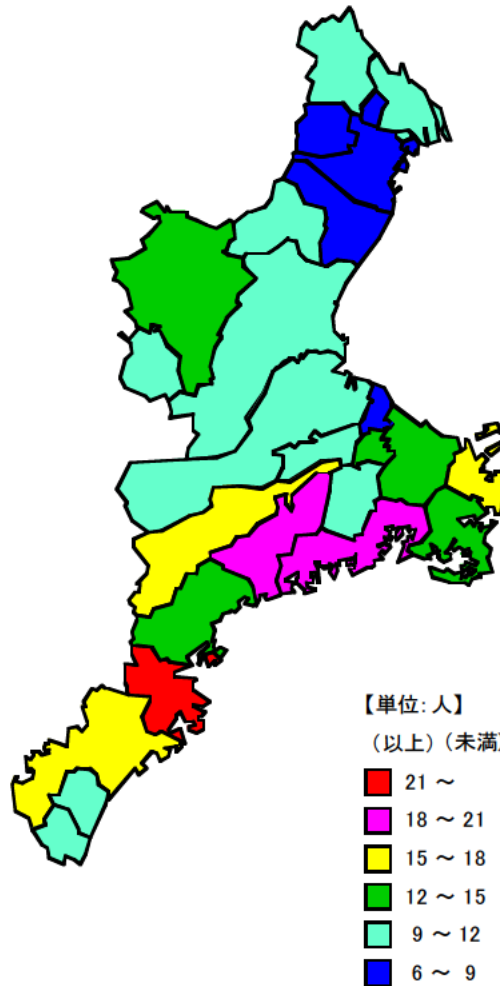
【算出方法】

徴収率＝収納額／課税調定額×100

単位：人

● 市町別職員数（人口千人当たり）

市町名	平成20年度	順位
尾鷲市	21.75	1
南伊勢町	20.60	2
大紀町	20.59	3
熊野市	17.97	4
大台町	17.97	5
鳥羽市	17.93	6
志摩市	14.83	7
伊賀市	13.97	8
紀北町	12.31	9
玉城町	12.09	10
伊勢市	12.02	11
度会町	11.94	12
亀山市	11.52	13
多気町	11.16	14
紀宝町	11.04	15
名張市	11.02	16
松阪市	10.72	17
御浜町	10.72	18
木曾岬町	10.60	19
桑名市	10.08	20
津市	10.03	21
朝日町	9.68	22
いなべ市	9.28	23
四日市市	8.86	24
川越町	8.72	25
明和町	8.53	26
東員町	7.77	27
菰野町	7.66	28
鈴鹿市	7.34	29
三重県	10.64	
全国平均	***	



平成20年度の県内市町別の人口千人当たり職員数をみると、最大値が尾鷲市の21.75人で、次いで南伊勢町の20.60人となっています。
 最小値は鈴鹿市の7.34人です。

【資料出所】

県政策部市町行財政室「市町行政運営の状況」

【算出方法】

当該年度の職員定数/当該年度推計人口 × 1000

【備考】

職員とは、一般職員（技能労務員を含む）のことであり、教育公務員は含みません。